

事務事業評価表（公共施設）

1次評価日（主幹等） 26年3月31日

2次評価日（課長等） 26年3月31日

1 事業名	童画館管理事業			コード	111103	
2 担当部課	部等	企画政策部	課等	ブランド推進室	作成者	霜鳥 哲也
3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち			
		政策	文化・スポーツの振興	施策	文化・芸術の振興	
		予算科目	童画館管理運営費	業務委託	全部委託	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	日本童画美術館条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的

*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

施設の概要 (簡潔に)	大人から子供まで世代を超えた多くの人が気軽に「童画」と親しめる環境をつくることにより、市民の芸術文化の向上と市外からの誘客に努め、「童画のまちづくり」の推進を図る。	
目的	対象者	市民
	意図	童画文化の研究と活用

5 施設の管理運営状況

指定管理者	(公財) おかや文化振興事業団	25年度指定管理料	53,867,000 円
施設における通常業務	①施設の保守管理 ②施設の入館許可 ③入館料の徴収及び納入業務 ④施設、設備の利用調整 ⑤所蔵作品・資料等の購入、寄贈等受入、管理 ⑥企画展の計画、実施 ⑦絵本ライブラリー“はらっぱ”の管理運営 ⑧武井武雄研究会の運営(事務局) ⑨はらっぱ事業の実施 ⑩その他各種事業の実施 ⑪ミュージアムショップの運営 ⑫喫茶室の運営 ⑬武井武雄著作権の管理		
事業の実施内容	(25年度に施設で行った運営事業・自主事業など) ・同上 ・企画展では、荒井良二絵本原画展、岡部冬彦絵本原画展、くまの学校展、秋岡芳夫展、日本童画大賞上位三人展を開催したほか、はらっぱ事業では、ワークショップを76回開催した。		
前年度の課題への対応	市民のニーズにあった企画展やワークショップを開催した。		

6 施設の利用状況

*②・③はどちらかの欄に記入

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	
年間開設日数(日)	307	308	309	309
1日の開設時間(時間)	9	9	9	9
年間利用可能時間(時間)	2,763	2,772	2,781	2,781
年間利用実績(時間)	2,763	2,772	2,781	
② 年間利用者数(人)	30,836	25,462	30,431	28,908
有料利用者数	12,847	7,186	6,660	8,897
無料利用者数	15,862	16,197	17,820	16,626
減免措置者数	2,127	2,079	5,951	3,385
③ 年間利用件数(件)	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	100.4	82.7	98.5	93.6
⑤ 施設利用状況の説明	「荒井良二絵本原画展・くまの学校展」など多くの入館者があった。			

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	54,284,977	57,391,986	54,322,383	59,007,000
経常経費	54,094,977	57,391,986	53,892,383	59,007,000
臨時的経費	190,000	0	430,000	0
* 臨時的経費の説明	武井武雄作品購入費			

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	10,800,000	11,600,000	11,600,000	11,600,000
正規職員の人数(人)	1.35	1.45	1.45	1.45
③ 合計コスト(①+②)	65,084,977	68,991,986	65,922,383	70,607,000
前年度比		106.0%	95.6%	107.1%
財源内訳				
一般財源	57,823,555	64,568,936	60,860,684	65,024,943
特定財源	7,261,422	4,423,050	5,061,699	5,582,057
* 特定財源の説明	※入館料、著作権使用料			
④ 施設使用料年間収入額	6,456,100	3,644,500	4,451,250	4,850,617
⑤ 年間減免措置額	1,551,900	902,650	1,480,800	1,311,783
⑥ 受益者負担割合	14.8%	7.9%	10.9%	10.4%
⑦ 活動一単位あたりコスト	2,105	2,710	2,152	
前年度比		128.8%	79.4%	
⑧ コストに関する補足説明				

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。	1	
1日あたり利用者数、件数	前年度比 119.1%	
⑤ 施設使用料収入が増加した。	1	
施設使用料年間収入額	前年度比 122.1%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)	
	①リピーター率の向上と収入増を図るため年間入館券の普及 ②刊本作品鑑賞会、ギャラリートークなどの開催により、身近に館を感じてもらふ事業を開催 ③喫茶室の運営、利用者向上について	
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	入館者増に向け様々な機会に館のPRを行う。市民ニーズにあった企画展等の開催。 喫茶室については、継続して検討していく。 図書館や美術館との連携による企画展等のPRコーナー設置。	
	改善開始時期	平成26年4月～

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
13 大規模修繕の予定			
予定事業費	円	予定時期	
内容			